



南アフリカ新聞号外①

SABONA

鈴木 壮太

こんにちは。今回は号外です。通常の新聞は小学校低学年の児童にも読みやすいように作成していますが、アフリカについてもっと詳しく、少し踏み込んだ（つमりの）内容を書いていこうと考えて、号外を作成することにしました。（通常の新聞と内容が重複する場合がありますが、通常版の内容を補足できると思います。）

私は昨年7月より南アフリカ共和国で活動していますが、活動の要請内容は「教員への助言を通じて、児童の算数の学力向上に取り組む。」というものです。

号外初号のテーマは「算数教育の実態」です。私が通っている2つの小学校の実態ですので、南ア全体がそうであるとは言えませんが、少なくとも任地の実態は伝えられるかと思います。

まずは南アの算数の力を世界のランキングで見ましょう

2015年、世界協力開発機構（OECD）は、世界76の国と地域で15歳の生徒を対象に学習到達度調査（PISA）を行いました。数学と科学に基づいた結果がこちら。

1位 シンガポール

2位 香港

3位 韓国

4位 日本、台湾

：

75位 南アフリカ共和国

76の国と地域のうち南アは75位。このように、南アには算数が苦手な子どもが多いのです。なぜでしょう。

算数が苦手な理由

理由①「母語のスワジ語を読めない」

低学年の子どもたちは、教科書に書いてあるような基本的なスワジ語をよく理解できません。算数の問題を解く前に、問題文の意味を理解するのに多くの時間がかかります。（幼い頃から文字に触れることが極端に少ない。）

理由②「普段の生活に数字がない」

子どもたちは1日の中で数字にほとんど触れません。例えば日本では、教室の時計（時間・時刻）、身体測定（高さ・重さ）、体力測定（速さ・距離）、番号（順列※名前の順、背の順）等、多くの場面で数字に触れますが、アフリカの子どもたちは生活の中で算数の授業以外に数字に触れることがほとんどなく、数感覚が非常に乏しいのが特徴です。

理由③「授業中は座って先生の話だけを聞くだけ（という場合が多い）」

日本のように、算数セットを使ったり、自分の考えや意見を発表したり、隣やグループの友だちと話し合ったりすることはあまりありません。先生の話をしっと聞き、その後問題を解く。というのがほとんどです。具体物を実際に操作する活動がないため、数感覚を習得しにくい状況です。早く問題が解き終わった児童はその後ぼーっとして過ごします。逆に終わらないと、先生に叱られてしまいます。子どもたちは先生に叱られるのが怖いので（体罰も多い）、隣の友だちの答えを写します。（教員が適切な指導法を知らない。）

理由④「4年生からいきなり英語で授業」

3年生までは算数を含めスワジ語で教わりますが、4年生から急に全ての授業は英語で行われるようになります（教科書も英語表記）。そのため、ここでつまずいてしまう児童も多いのが現状です。

理由⑤「教員の教育に対する意識の問題」

文化的な側面が大きいのかもかもしれませんが、教員は授業中でも会議中でもメールが来たら返信し、電話が鳴ったら出ます。それが授業中の場合、児童は放置されます。教員が疲れたと感じたら児童に自習をさせ、教員は休憩してしまうこともあります。また、学校生活において児童が主体となって物事に取り組むことは少なく、教員に言われたことに従って行動するしかないため、自分で物事を考えて行動する力が身に付きにくいのかもかもしれません。